



## HOTEL NEW GRAND

Since 1927

Scene of Grand History





## HOTEL NEW GRAND

Since 1927  
Scene of Grand History

1927年(昭和2年)に開業したホテルニューグランド。

横浜の歴史と共に歩んできた当ホテルの歴史を、

冊子にまとめました。ぜひご覧ください。

戦前、戦後、平成と移りゆく時代の中で、

ホテルニューグランドは揺るぎない眞のホスピタリティと

横浜ならではの文化を育んでまいりました。

日本を代表するクラシック・ホテルの名に恥じない

一流のおもてなしを、これからも。

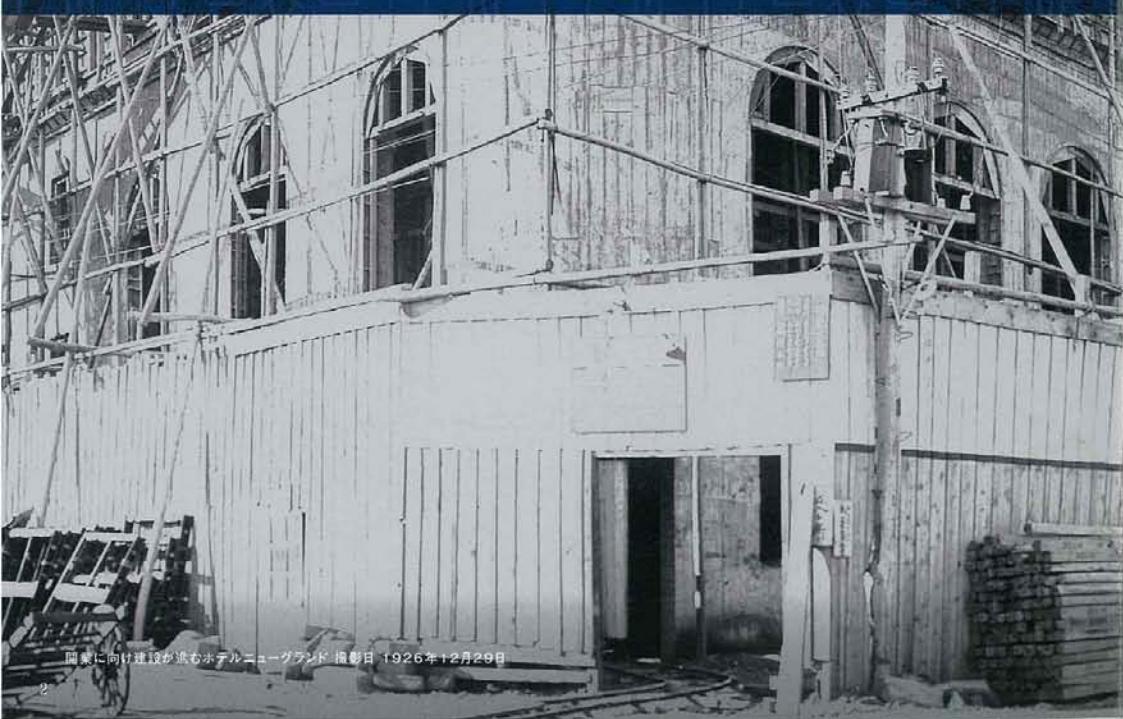
スタッフ一同、歴史と伝統を守りつつ、

新たな気持ちで、

ひとりひとりのお客様をお迎えいたします。



## Prologue —誕生の背景—



開業に向け建設が進むホテルニューグランド 撮影日 1926年12月29日

1859年、横浜開港。

文明開化の横浜を襲った関東大震災からの

復興のシンボル、それがホテルニューグランドでした。



大樓橋の様子(左)とバンド通りからの眺め(右)が  
描かれた明治時代の絵葉書



関東大震災絵葉書  
グランドホテルが建っていた  
海岸通りの惨状



ホテルを囲むようにテント・ホテルと  
呼ばれる仮設宿泊所が  
写真に収められている

2005年5月、ホテルニューグランドにアメリカからの珍しいお客様がいらっしゃいました。マシュー・カルブレース・ペリー…あのペリー提督のご子孫、フレデリック・ニコルズさん他そのご親族19名です。来訪の目的は、ペリーゆかりの横浜の名所をめぐること。ホテルニューグランドのペリー来航の間に飾られた巨大な複製画「ペリー提督・將兵の横浜上陸図」をご覧になるためです。この絵は、ペリー提督の随行画家ハイネによって描かれました。長く当ホテルニューグランド会長原範行が所蔵しておりましたが、現在は横浜美術館に寄贈・展示されています。横浜の歴史を代表する一枚です。1927年の開業以来、横浜唯一のクラシック・ホテルとしての伝統を守り抜いてきた、ホテルニューグランド。その歩みは、まさに横浜の歴史、そして、世界から日本を訪れた華やかな賓客たちの歴史でもあります。



ベリー提督・將兵の横浜上陸図（写真提供:横浜開港資料館）

約150年前、江戸時代後期までの横浜は、海沿いの小さな漁村に過ぎませんでした。しかしその歴史を大きく変えたのが、ペリーの黒船来航です。日米修好通商条約による横浜開港と、外国人居留地の設置。まだ旅客機がなかった時代、横浜港は文字通り、世界への表玄関として発展してきました。貿易や技術指導のために訪れる多くの外国人宿泊のため、ホテルが次々とオープンしたのです。クラブホテルやホテル・デ・パリ、また現在ホテルニューグランドの並びの敷地に建っていたグランドホテルもそのひとつでした。尚、グランドホテル（明治6年開業・昭和2年解散）は、当ホテルとは、異なるイギリス人経営のホテルでした。

Yokohama's modern era dates from 1859, when the port was opened to the international trade. For over a century, Yokohama has served as an important gateway between Japan and the rest of the world, playing a crucial role in Japan's modernization and internationalization.

In 1923, the Great Kanto Earthquake devastated the Yokohama city and the reconstruction of the hotel for foreign merchants and dignitaries was a key cog in the wheel of Yokohama's international trading and economy.

The Hotel New Grand was born in 1927, and has been acting as an international classic hotel, and symbolizing the history of Yokohama. The hotel has welcomed the guests from all over the world including many dignitaries and celebrities for quite many years.



## Grand Open —開業秘話—



本館2階ロビーに上がる階段 撮影日 1927年12月16日

横浜の昭和の幕開け。

1927年、ホテルニューグランド誕生。



1928年6月6日 日本ホテル協会主催、アメリカホテルキャラバンの  
懇親会で実際に使用された晚餐メニューを記した扇子



1927年12月1日 本館レインボーボールルームにて開業の挨拶 井坂孝取締役会長

尚、ホテルの名称は一般公募されましたが、なかなか適當なものはありませんでした。結局は震災前に横浜を代表したグランドホテルの名を蘇らせようという思いから、ホテルニューグランドに決まったと伝えられています。

1927年(昭和2年)11月竣工落成、12月1日開業。レセプションには各国大使をはじめ、約3000人が集まりました。それはホテルだけでなく、横浜の昭和の華々しい幕開けでもありました。



ホテルニューグランド開業日 玄関前での受付の様子



1927年12月1日開業日  
本館2階メインダイニングルーム(現フェニックスルーム)

After the Great Kanto Earthquake on September 1, 1923, the mayor, Chuichi Ariyoshi had a leading role in the reconstruction process of the blighted city. His first priority was the construction of a hotel and the plan was supported and welcomed by the citizens of Yokohama, and which was approved by the Yokohama Municipal Assembly.

Jin Watanabe, Japanese famous architect designed the hotel. (His outstanding works include the Tokyo's architectural heritage of Wako Building in Ginza, Tokyo National Museum and etc.)

On December 1, 1927, about 3000 guests including foreign ambassadors were invited to the grand opening reception of the Hotel New Grand which was an epitome of the spectacular Showa era in Yokohama city.



## The End Of The War — 戦前終戦後 —



マッカーサースイート

1945年終戦。

マッカーサー元帥とホテルニューグランド。

日本の行方を見守った315号室。



マッカーサー元帥が愛用していたコーンパイプ

しかし開業後のホテルニューグランドの歴史は決して平坦なものではありませんでした。開業からわずか10数年で、太平洋戦争の勃発。戦時中も何とか営業を続けたホテルニューグランドも、終戦となった8月15日に一時解散することを決めました。

「一時各自の家に戻り、いつの日いか開業の機会が訪れたら駆けつけて欲しい」と従兵から逃れたわずかな従業員は告げられたそうです。

そんなホテルに戦後一番にやってきた人物、それが連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサーでした。あの有名なコーンパイプ、濃いサングラス、ノーネクタイ姿で1945年8月30日、厚木飛行場に降り立ったマッカーサー元帥。彼は「どこへ」と聞かれると、「ホテルニューグランドへ」と答えたと言います。マッカーサー元帥は戦争前から日本を5回訪れた経験があり、その際、当ホテルに2度も宿泊した経験があったのです。ジーン夫人との新婚旅行もホテルニューグランドでした。

よほど心に残る、お気に入りのホテルだったのでしょう。マッカーサー元帥は声明文朗読の後、すぐさま乗用車に乗り込み、まっすぐホテルニューグランドを目指しました。そもそも進駐軍が滞留地を横浜とした背景には、最高司令官の宿舎として、戦火を逃れたホテルニューグランドがふさわしいとの意見があったからと伝えられています。



マッカーサー元帥が実際の執務に使用したライティングデスクとイス



昭和30年ホテルニューグランド ルーフガーデンより、大桟橋を望む。ガーデン内の照明は、接收中にアメリカ軍によって取り付けられた。

ホテルニューグランドでマッカーサー元帥を迎えたのは、当時の当ホテルの会長、野村洋三でした。野村はマッカーサーに何のおもてなしもできないことを心から詫びるとともに、日本の窮状を流暢な英語で訴えました。横浜全域が空襲で焼失したこと、老人や女性、子供たちが食糧難にあえいでいること、また市民の不安など…。野村の言葉に、マッカーサー元帥は気軽に耳を傾けたそうです。そして、かつては日本を代表したホテルが扇風機ひとつ、ハンバーガーひとつ用意できない惨状からも市民の窮状を察したのでしょうか。数日後には横浜市民のための大量の物資を用意してくれたと言います。マッカーサー元帥が宿泊した315号室は、それ以来、正式名「マッカーサーズスイート」、俗に「勝利の間」と呼ばれ、彼が実際に使ったライティングデスクとイスも大切に残されています。

その後1952年(昭和27年)、接收が解除され、ホテルニューグランドが横浜市民のもとへ戻るまでの約7年間、連合軍のアメリカ人たちから従業員に教えられた多くの流儀やノウハウは、その後のホテルニューグランドの進化に大いに役立つこととなったのです。



1945年8月31日、横浜の惨状を視察するため車に乗り込む前のマッカーサー元帥 本館玄関前にて撮影 (写真提供:株式会社有隣堂)

The hotel had maintained good growth until the breaking out of the World War II. When the war ended, Hotel New Grand was compelled to disband the business temporarily.

On August 30, 1945, General Douglas MacArthur, the Supreme Commander for Allied Powers had arrived at the hotel from Atsugi airfield and established his first office at Room 315. Since then the room has been called as MacArthur's Suite and his-writing desk and chair are still in use in the historic room with his portrait.

In the room, then-chairman, Yozo Nomura explained the situation of severe food shortage and general unrest of the city. After the few days, the supply was provided for the citizen of Yokohama. Under the American hands for about seven years, the hotel staff learnt the stricter standards which are essential for modern style of hotel management.



本館2階レインボーボールルーム：虹色の照明が照らした丸みを帯びた天井は、当時の漆喰職人による最高傑作といわれました。そのほか、現代では成しえないディテールのあるものづくりの成果を多く見つけることができる。



本館2階フェニックスルーム：宴会場の中には6本の柱があり、桃山調と呼ばれる日本風の様式は、開業当時、ホテルのメインダイニングとしてスタートし、当時のお客様のほとんどが外国人であったことを意識しての造りでした。今でも変わらず当時のまま使われており、一步足を踏み入れると一種独特的の夢幻気を感じることができる西洋様式のニューグランドにあって、日本古来の神殿を内包したかのようなフェニックスルームは、神秘的な雰囲気をまとっている。



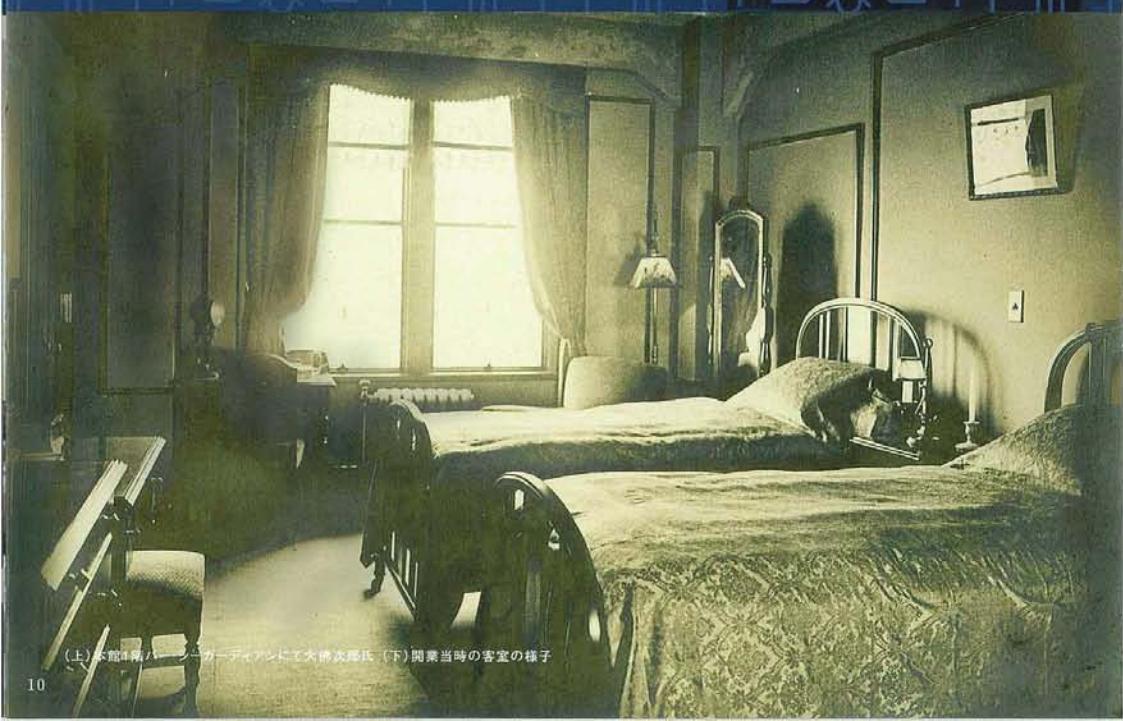
本館2階ロビー：開業当時はロビーを談話室と呼んでいた。ソファに腰をかけて山下公園の前の銀杏並木、横浜港を眺めることができます。



本館2階ロビー：ロビーチャペルにも利用される歴史的空間。横浜家具を配置し、マホガニーの柱と合わせて重厚な空間を創り上げている。



## Hotel Guest Story — お客様とホテルニューグランド —



(上) 本館5階バー・シーガーディアンにて大佛次郎氏 (下) 開業当時の客室の様子

315号室、マッカーサー元帥。

318号室、大佛次郎。

ホテルニューグランドを愛した人たち。

ホテルニューグランドの大切な財産、それはお客様のお名前を記したゲストブックです。ゲストブックは、これまで当ホテルを訪れたたくさんのお客様の記録です。不幸にしてゲストブックそのものは占領軍接収時にいざれかに持ち去られましたが、そこに記載された国内外から訪れた



1961年4月大佛次郎氏歓迎会にて 右列手前より3人目が大佛次郎氏

著名人の顔ぶれは、歴史的にも意味があるものばかりで、あつたと云われています。

まず最初にお名前を挙げたいのが、大佛次郎（おさらぎじろう）氏です。大佛氏は、「鞍馬天狗」という昭和を代表する大ヒーローを生み出した大作家。幕末を舞台とした時代小説、鞍馬天狗シリーズは、繰り返し映画化、テレビドラマ化され、国民的作家として長く日本人に愛されてきました。大佛氏は「このホテルでないと、落ち着いてものが書けない」とおっしゃられ、10年間に亘って長逗留されました。



1934年11月 日米親善野球でペーブルースやコニー・マック監督率いる  
米国野球団が来日



「タイガー・カリキュレーター」  
Kihonモデル（1953年製造）

部屋は港のよく見える318号室。この部屋から、横浜を舞台にした「霧笛」など多くの名作が世に出ました。その後1973年に亡くなられ、東京築地の病院から鎌倉のご自宅へお帰りの際には、その車がホテルニューグランドにも立ち寄られ彼が愛したハマの海と銀杏並木とホテルの従業員たちに最後の別れを告げました。以来、ホテルニューグランドで先生と言えば、今も大佛次郎氏を思い起こさせます。

また、かの喜劇王チャーリー・チャップリン、日米親善野球で訪れたペーブルースも、当ホテルを訪れた世界のVIPです。日本の皇室はもちろん、英国王室の方々をはじめ、世界中の要人もこのホテルを訪れました。池波正太郎氏や、石原裕次郎氏、松田優作氏もこのホテルを愛した大切なお客様です。裕次郎氏や優作氏がよくシェリー酒のグラスを傾けていたのが、1階のバー・シーガーディアンです。サン・オールスターズの歌にも歌われたこのバーには、他にも多くの著名人たちのエピソードが残っています。



1958年 本館5階ルーフガーデンより港湾の諸施設をご覧になられた  
皇太子殿下 ご説明役は内山岩太郎県知事と平沼亮三横浜市長（当時）

In the long history of the Hotel New Grand, a place that truly represents the international city of Yokohama, we have been honored to welcome many famous guests over the years, including historic figures like Charlie Chaplin, Babe Ruth, The Prince Henry, Duke of Gloucester and etc.

The famous Japanese master writer, Jiro Osaragi had been the resident of Hotel New Grand for more than ten years from 1931. In the room 318, He wrote the representative works such as Muteki and Kuramatengu series. He had enjoyed the night time and its liberal atmosphere at Bar Sea Guardian.

Japanese imperial family and world famous celebrities also experienced an elegant touch of classes when they stayed at Hotel New Grand.



## New Grand Tower - 21世紀に向けて -



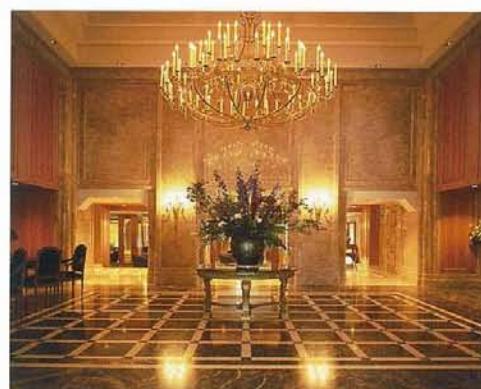
現在の中庭

東京オリンピック、大阪万博。

1991年、ニューグランドタワーOPEN。

21世紀を見据えた、ホテルの進化。

1964年、アジアで初めてのオリンピック、東京オリンピック開催の頃には、ホテルニューグランドもたくさんの海外からのお客様で賑わいました。しかしその後、1970年の大阪万博の頃から、次第にお客様の顔ぶれが変わってきたのです。円高で減少していく外国人観光客から日本人のお客様へ。当時当ホテルでも展開を始めた婚礼プランや宴会などのご利用も増えました。日本人も、本格的にホテルを楽しめる時代がやってきたのです。その流れから、1970年代後半には横浜にも次々とホテルがオープンしました。開業以来、横浜ではほぼ独占状態だった当ホテルも戦略的転換を迫られることとなつたのです。そこで、当時のホテルニューグランドが進めなのが、当時まだ横浜で存在しなかつたタワーホテルの増築だったのです。



タワー 1階 ロビー

地上18階、地下5階のニューグランドタワーの基本コンセプトは、“ヨーロピアン・エレガンス”。例えば、タワーの象徴とも言うべき5階のパノラミックレストラン「ル・ノルマンディ」は、1930年代に実在した豪華客船ノルマンディ号のメインダイニングをモデルにつくられました。デザインは、アラブ王族の邸宅やニューヨークのエセックスハウスなど現代建築の名作を手がけたフランス人建築家、ピエール・イブ・ローション。ノルマンディ号の甲板と同じ高さに造られたレストラン。ウッドデッキが敷かれた正面窓側席から見る風景は、まるで船からの眺め。横浜の海が一番きれいに見えるレストランの演出です。

中庭の噴水に配置された像



タワー5階 ル・ノルマンディ デッキ席より横浜の海・夜景を眺めることができる



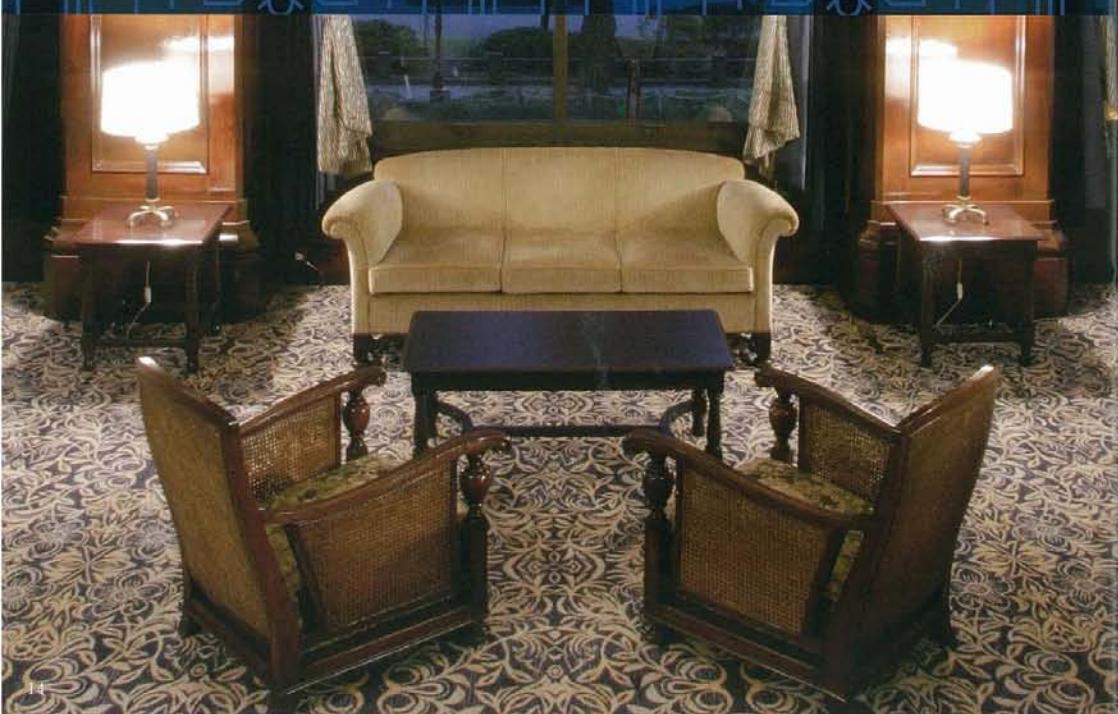
タワー18階 スカイチャペル

また、当初プールだった屋上が、地上70mのスカイチャペルに変身したのは1997年。横浜の空の下、海を見下ろす結婚式は、ホテルの象徴となっております。

When the first Olympic game in Asia was held in Tokyo (1964), the generality of guests were foreign clientele and a handful of Japanese dignitaries and celebrities. Around the year of Osaka Exposition, the hotel faced a major turning point. The other rival hotels were opened one after another and appreciation of Japanese yen caused decreasing of the foreign travelers. The sophisticated and modern annex tower was designed by world famous french designer, Mr.Pierre Yves Rochon and built in 1991. Now the tower is, so to speak, one of the landmarks in the city facing Yamashita Park in harmony with the classical form of the older main building. The reason why the Hotel New Grand is admired by many visitors is its splendid view of Yokohama Bay, spread out and seen from the hotel rooms. The view is truly amazing.



## New Grand Tradition -歴史と伝統そして革新-



ホテルニューグランドの歴史、  
それは革新と進歩の歴史です。

ガス灯、鉄道、ホテル、レストラン、ジャズ、テニス、アイスクリン、ビール、牛鍋…。何の脈絡もないようですが、これらには共通項があります。じつは、全てが横浜発祥のものなのです。そう、横浜は文明開化の街。そんな横浜随一のクラシックホテル、ホテルニューグランドでも、長い歴史の中でたくさんの新しい文化が生まれてきました。

誕生の舞台の多くは厨房でした。その主役は、1927年ホテル開業時にパリから招かれたシェフ、サリー・ワイル氏。そして、その思想を受け継いだ料理人たちです。ホテルニューグランド初代総料理長サリー・ワイルは、スイス出身。四方をさまざまな国に囲まれた土地で育ったせいか、非常に柔軟な考え方の持ち主で、それまでのフランス料理の常識に変革を与えました。従来の堅苦しいコース料理ではなく、ア・ラ・カルト(一品料理)というスタイルをフレンチに持ち込んだのも彼でした。



シーフードドリア



初代総料理長サリー・ワイル氏と料理人たち

また、ライスとシュリンプにベシャメルソースをかけて焼き上げる、現在のドリアの調理法を完成させたのもサリー・ワイル氏です。きっかけは風邪気味の銀行家のお客様の喉に通りの良い料理をつくるためでした。その後、彼がスイスに帰国後も、彼の気質を受け継いだシェフたちは、スペゲッティ・ナボリタン、プリン・ア・ラ・モード、ラムポールなど、たくさんの名作を生み出しました。シチュービーフやローストビーフなど、数々の洋食を日本人の舌に合うような味に改良してきたことも、彼らの大きな功績です。また、このホテルで修行したワイル直系のシェフたちは各地へ巣立ち、後の我が国のフランス料理界を支える料理人に育ちました。サリー・ワイル氏はまさしく日本の近代フランス料理界の父となったのです。そして21世紀、ホテルニューグランドでは、サリー・ワイル氏の魂、そして歴史と共に育まれたホスピタリティが、未来へと引き継がれています。

初代総料理長サリー・ワイルが  
使用していたタイプライター

タワー5階 パノラミックレストラン ル・ノルマンディ



ル・ノルマンディ レストラン内 プライベートダイニング ラメール

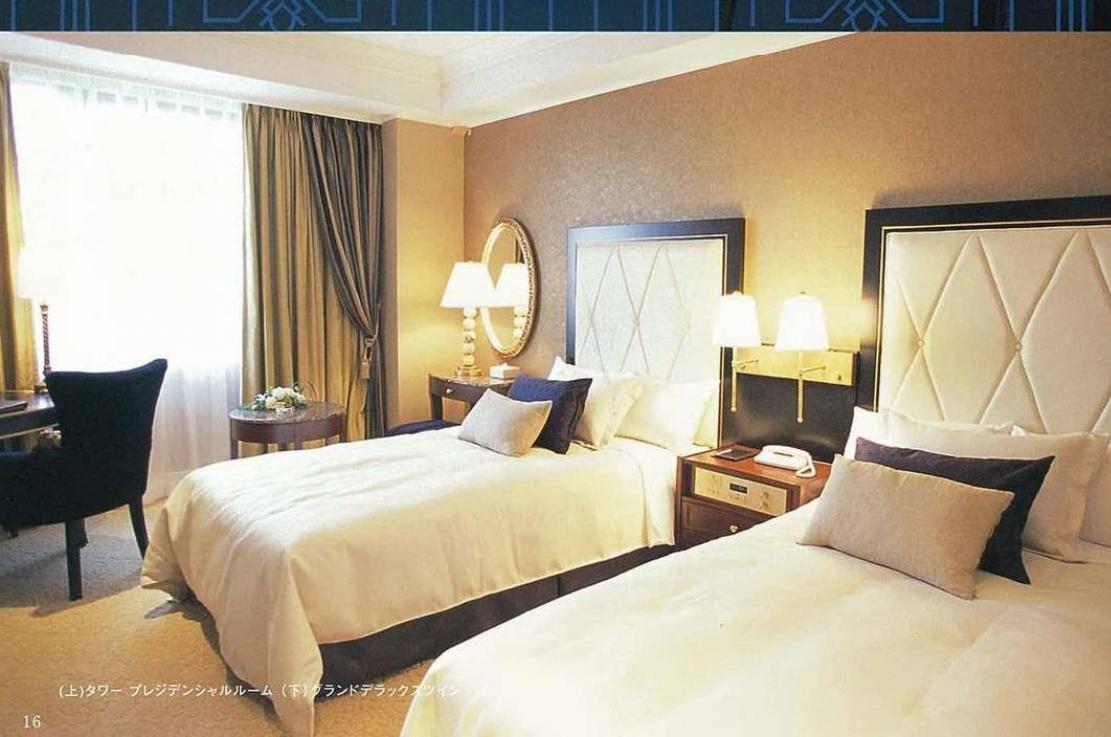
Hotel New Grand welcomed Saly Weil from Paris as the first executive chef. Originally from Switzerland, Weil invented quite a few recipes, and introduced a la carte dishes in comparison to the authentic full-course french dinner. One of the examples of his new recipes is a shrimp doria (baked rice and shrimp covered with béchamel sauce.) His recipes were inherited by his successors and are still loved by many guests. During his service for ten years at Hotel New Grand, his french cuisine inspired by Japanese sensitivity had not only brought sophisticated dishes but also many remarkable chefs into the Japanese culinary industry. Saly Weil became the father of modern french cuisine in Japan, and his stories are still passed on to new generation of culinary personnels.



客室の鍵と鳳凰のロゴが  
刻印されたキーホルダー



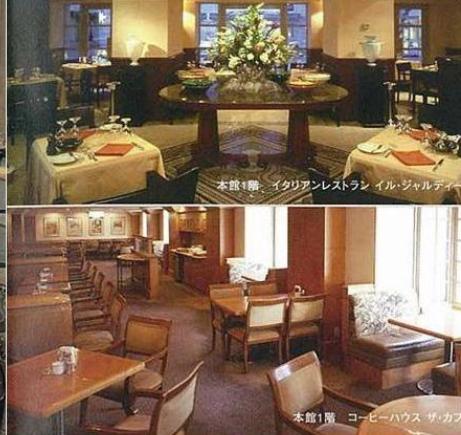
## Forward & Future — 未来への誓い —



(上)タワー プレジデンシャルルーム (下) グランドデラックスツイン



[タワー6階 ベリー来航の間]



[本館1階 イタリアンレストラン イル・ジャルディネ]



[本館1階 コーヒーハウス ザ・カフェ]



[本館1階 バー・シガーディアン]

[タワー3階 ベリー来航の間]  
「ベリー提督・将兵の横浜上陸図」壁画が飾られている。  
文明開化の気概を伝える横浜ならではの宴会場。

[本館1階 イタリアンレストラン イル・ジャルディネ]  
正統イタリア料理をカジュアルな感覚でお楽しみいただけます。  
大きなガラス窓越しに、バティオの緑が広がる空間が開放的に  
映るレストラン。

[本館1階 コーヒーハウス ザ・カフェ]  
伝統の味からオシャレなデザートまで、優美な時間をお過ごしいただけます。

[本館1階 バー・シガーディアンⅡ]  
重厚な雰囲気の中、濃密な大人の時間が流れていく英国調の  
正統派バー。ニューグランドや横浜で生まれた本場のカクテルを  
お召し上がりいただけます。

[本館1階 ロビーラウンジ ラ・テラス]  
フロントロビーと本館をつなぐラウンジは、人々の会話を静かに  
行き交う、くつろぎと出会いの場。

ホテルニューグランドは、  
これからも変わることなく  
おもてなしの心を大切にいたします。

ホテルニューグランドの開業から幾多の年月が流れました。そして又、時代の流れは、ますます加速して行きます。

国際都市横浜の地に凜として存在し続けるホテル、国内外のお客様に21世紀のこれからも愛され続けるホテル、何ものにも変え難い歴史と伝統を守りつつ新たな革新を着実、確実に志向していくホテル。

ホテルニューグランドは、これからもおもてなしの心を大切に、お客様をお迎えしてまいります。

With the unique tradition of international city of Yokohama, Hotel New Grand has been honored to welcome the guests for quite many years. The hotel has created original style of hospitality with the special historical touch only to be found at a classic hotel.

Inheriting the tradition and history, the hotel standards are progressed in the trend of the time.

In front of historic Yamashita Park and Yokohama Bay, the hotel is the place for a very special occasion of sharing the exquisite atmosphere, cuisine and hospitalities. Such a magical touch has been the very specialty of the Hotel New Grand, an epitome of the history of Yokohama.

Hotel New Grand are looking forward to making your stay pleasant and memorable.

One and only, it is Hotel New Grand.



天皇皇后両陛下がご来館されました。  
ホテル玄関前にて、沿道の市民にあいさつをされる両陛下。



 ホテルニューグランド

10 YAMASHITA-CHO NAKA-KU YOKOHAMA, 231-8520  
TEL 045-681-1841 FAX 045-681-1895  
URL <http://www.hotel-newgrand.co.jp>